



ウトナイ湖通信

No.155

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

いろいろ見たよ！「ウトナイ湖・春の渡り鳥ウォッチング」

主に本州以南で冬を越していた野鳥が、繁殖地のロシアへ向かう途中に立ち寄る季節。そんな渡り鳥の姿を観察しようと、3月19日（日）にイベントを開催し、16名の皆さんにご参加いただきました。

まずはレクチャールームで渡り鳥、特にハクチョウ類やガン・カモ類などの生態について紹介し、野外へ。気温は低いものの、青空が広がる中、自然観察路を「あずまや」へ向かいます。その後は階段状のデッキがある「ハンノキのテラス」で、双眼鏡と望遠鏡を使い、ヨシガモ、ホ



まずはレクチャールームで観察できそうな野鳥を紹介



「ハンノキのテラス」からオオワシをウォッチング

オジロガモ、カワアイサなどをじっくり観察しました。シロカモメやオオワシも登場し、皆さんも笑顔です。

自然観察路では水鳥以外にも、ハンノキにとまってタネを食べるマヒワの群れにも出会い、観察できたのは10種となりました。皆さんが最も印象に残ったのは、オジロワシだったようです。終了後のアンケートには「ふだん景色として見ている水辺にこれだけ野鳥がいてびっくり」などの感想があり、また、満足度も高かったことがうかがえました。

ショートプログラムで春を感じる

2月の「冬を楽しむミニツアー」に続き3月も、「春を感じるミニツアー」を開催しました。日本野鳥の会のレンジャーが、当センターのボランティアとともに周辺を案内する30分間のミニガイドです。



ツアー中に観察したエゾノバコヤナギの芽。繭玉を付けたよう

テーマは「春さがし」。雪の下から顔を見せたフッキソウの緑の葉っぱ、長く伸びた雄花から花粉を飛ばし始めたハンノキ、

渡り途中に立ち寄った水鳥、人影を察し逃げる小魚など、参加者それぞれにウトナイ湖の浅い春を感じていただけたようです。



キタコブシの冬芽をさわり、毛布のような感触を実感

春の訪れは遅いようです

例年よりもかなり積雪量の多かった苫小牧。ウトナイ湖周辺では、3月下旬になった現在も自然観察路のあちらこちらに雪が残っています。いつもの年だと4月上旬には黄色い花を咲かせるナニワズも、まだ雪の下でじっと春を待っています。林床の植物の開花は、ちょっぴり遅くなるかも知れません。



雪が残る自然観察路(2017年3月23日撮影)



【自然観察路情報】

2017年3月16日(木)10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

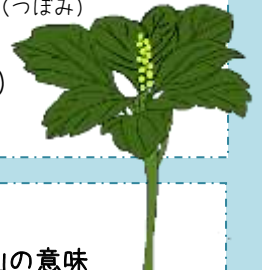
マガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ダイサギ、シロカモメ、オジロワシ、オオワシ
ハシボソガラス、ハシブトガラ、ヒバリ、エナガ、ハクセキレイ(以上、姿)
アカゲラ、ヒヨドリ、キバシリ(以上、声)



《植物》

キタコブシ、エゾノバッコヤナギ、エゾニワトコ(以上、冬芽)、フッキソウ(つぼみ)
ハンノキ(雄花のつぼみの穂)、ガガイモ、カラコギカエデ(以上、タネ)

フッキソウ(つぼみ)



【水鳥カウント調査結果】

2017年3月16日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類

* ()内は個体数、(+)は「以上」、(±)は「前後」の意味

ヒシクイ(15)、マガン(56)、コブハクチョウ(10)、コハクチョウ(7)
オオハクチョウ(35)、ヨシガモ(28)、ヒドリガモ(29±)、マガモ(64±)
カルガモ(1)、オナガガモ(640±)、ホオジロガモ(3)、ミコアイサ(16)
カワアイサ(8+)、アオサギ(5)、ダイサギ(6)、シロカモメ(1)
オオセグロカモメ(1)、トビ(5)、オジロワシ(3)、オオワシ(8)



ヒシクイ



4月の自然予報

本州以南で越冬していた夏鳥が繁殖のため渡って来ます。すでに今季初確認済みのヒバリに続き、キジバト、ツバメ、オオジュリン、ノビタキなど、次から次へと新しい顔ぶれが増えていくでしょう。木々もまだ葉を広げる前。明るい林では姿を見つけやすく、また、美しいさえずりが聞かれます。

年によって差はありますが、例年だと上~中旬にコハクチョウの大きな群れが立ち寄ります。ただし、滞在時間は非常に短く、午前中に見られた大群が午後にはすべて姿を消していることもあります。



コハクチョウの群れ

遅い雪どけとなりそうですが、地面には黄色のナニワズに続き、白いフッキソウが開花を迎えるでしょう。その後は、タチツボスミなどが続きます。また、下旬からはキタコブシの白い花も咲き始めるでしょう。



キタコブシの開花



日だまりのクジャクチョウ



成虫のままの姿で冬を越していたクジャクチョウが再び姿を現します。日だまりでは、厳しい冬を乗り越え、ボロボロになった翅^{はね}を広げている様子が見られるでしょう。

【アキタブキ(ふきのとう)】

雪がとけ、地面が見え始めると姿を現す、おなじみの「ふきのとう(落の臺)」。じつは、アキタブキのつばみ(花)の集まりです。オスとメスの株があり、それぞれ花を咲かせますが、雄株はじきに枯れるのに対し、雌株の「ふきのとう」は上へ高く伸び、その後、綿毛付きのタネを飛ばします。ウトナイ湖周辺でも、湿り気のある場所に見られます。



こちらは雌株の花

*鳥獣保護区内での採集はご遠慮ください。

*当センターが開館してから15周年を迎える今年はそれにちなんでクイズを出題していきます！
あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 2002年に当センターが開館した場所には、1995年まで「ある施設」が立っており、営業していました。さて、その施設とはいったい何？

(あ) スーパー



(う) ホテル

(い) レストラン



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

ツグミ

体重79g



背中中央に外傷あり



2017年 2月 8日 くもり

8:00、苫小牧市内の小学生が登校中に保護。

2月8日 小学生が通う小学校から市役所へ通報。

市職員が回収し、10:30頃、当センターへ搬送。診察にて、背中中央に外傷を認める。ネコやカラスなどに襲われて負った傷と見られた。

2月9日 傷は深部まで達しており、直ちに処置を施す。自発採餌もできず、次第に呼吸状態は悪化。

2月10日 死亡にいたる。

ツグミ (スズメ目ツグミ科)

体長24cm、冬鳥として、平地から低山の森林に生息します。渡来初期には林内の地上や農耕地などでミミズや幼虫を捕食する姿が見られます。また、冬季になると街路樹や公園のナナカマドの実を食べる姿もよく観察されるようになります。

イベント情報

春のウトナイ湖・ウォークラリー

日時：4月29日(土・祝)、30日(日)、5月3日(水・祝)、4日(木・祝)、5日(金・祝)
6日(土)、7日(日) 各日 10:00~16:00 (受付時間)

対象：どなたでも

申込み：不要。当日 10:00 から随時受付(受付終了は 16:00)

内容：約 500m の自然観察路を歩いて一周しながら、途中のポイントに設置された春の自然に関するクイズに挑戦いただきます。ゴールでは答え合わせをし、参加賞をお渡しします。



市民ギャラリー

「野鳥との出会い写真 二人展」

日時：4月2日(日)~4月28日(金)

展示：松尾義久さん・横井保さん



◆ウトナイ湖◆

周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。

鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前 9 時～午後 5 時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

